

【 総務建設委員会行政視察（5/20～22） 】

愛知県一宮市 「DX 推進計画・ChatGPT の活用」

全国自治体 DX 推進度ランキング 2 位の一宮市では、デジタル技術を積極的に活用した行政運営が進められておりました。業務の効率化と住民サービスの充実を両立するための「PMH 実証事業」、自治体専用の AI ツール「ZEVO」の日常業務への導入、カメラを搭載した公用車による道路補修箇所の診断、来庁する外国人への対応として外国語タブレットの利用など、全庁的にデジタル活用の浸透が感じられました。デモを通じて、先進的なデジタル技術に接することができた。



愛知県清須市 「LP ガス式空調の導入」

災害時の避難所機能を考慮し、LP ガス式空調設備を小学校体育館へ導入し、防災対策を強化していました。燃料供給や安全対策に配慮しつつ、停電時も稼働可能な設備構成が整っており、輻射式パネルとの比較検討を含めて、今後の空調整備の参考となりました。経済産業省の補助金活用がコスト抑制に寄与している点も、注目されました。



東京都清瀬市 「家庭用廃食油を SAF に活用する取組」 「電力のいらぬサステナブル自動ドア」

家庭から出る廃食用油を回収し、持続可能な航空燃料（SAF）に再利用する取り組みを進められていました。デザイン性の高い回収ボトルの導入、高齢者の参加や企業との連携、積極的な啓発活動などにより、地域ぐるみで環境意識を高める取組は、今後の有田市の脱炭素施策にも活かせる内容でした。

また、人の体重を利用した荷重式自動ドアは、電力を使用せず CO2 排出量もゼロで、停電時も稼働可能であることから、防災や省エネの観点から優れた設備であると感じました。維持費が抑えられることや、事故のリスクが低い点も評価でき、公共施設や災害拠点などへの導入を検討すべきと感じました。

